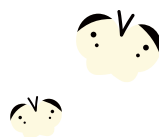


健やかに 育てるために



子どもたちの健全な育成を図るため、相馬市青少年健全育成市民会議で実施している事業や、各地区の推進協議会などで行われている活動を皆様にお知らせします。

8/4 流しそうめんとスイカ割り!



11/24 お団子作りで交流



8月4日、八幡地区子どもふれあい会では、コロナウイルス感染症の影響により5年ぶりとなる流しそうめん・スイカ割り大会を開催しました。子どもたちは、そうめんを友達と食べたり、スイカを割ったりしながら、夏休みの特別な1日を楽しみました。

また、11月24日には、新しい試みとしてお団子作りも行いました。子どもたちと保護者が一緒に粉を練り、あんこやきな粉などをトッピングして3種類のお団子を作り、皆でおいしく食べながら交流しました。

(流しそうめん・スイカ割り大会 参加者 47名 / 団子作り・くじ引きゲーム大会 参加者 36名)

相馬市青少年健全育成市民会議とは?

略して市民会議

市民会議は、子どもたちの健全な育成を図ることを目的に、市内青少年健全育成関連団体の代表者や、市内各地区で結成している青少年健全育成推進協議会に所属する地域住民の皆さんなどで組織された団体です。

子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを進めるため、家庭、学校、地域、関係機関等が連携を図りながら、社会全体で子どもたちを支援していくため、4つの部会に分かれて活動しています。

総務部会

皆さんに市民会議の活動を知ってもらうため、この広報紙「健やかに育てるために」を作成しています。

学校教育部会

学校教育機関との連携強化を目指し活動しています。少年の主張大会の運営を担当しています。

家庭教育部会

家庭教育の振興・普及のため活動しています。「みんなで子育てワイワイショップ」を子育て支援連絡会と協力して開催しています。

地域活動部会

地域社会の明るい環境作りを目指し活動しています。街頭啓発活動を行い、地域が連携することの大切さを伝えています。

相馬市青少年健全育成市民会議

事務局 相馬市教育委員会生涯学習課 TEL 0244-37-2187

「少年の主張」相馬大会（学校教育部会）



学校教育部会は、7月9日、市民会館大ホールを会場に「少年の主張」相馬大会を開催しました。

この大会は、中学生が社会の一員である自覚を高めるとともに、中学生に対する大人の理解や関心を深めることを目的としています。

今年は、市内中学校より選ばれた代表11名の生徒が、日常生活のなかで感じる思いや楽しみなどを自分自身の言葉で力強く発表しました。

大会結果

最優秀賞	木村 友乃さん	中村第二中学校 2年	『ノーチャレンジ・ノーチャンス』
優秀賞	安部 紗希さん	中村第一中学校 1年	『個性が輝く社会の為に』
優秀賞	小迫 はるひさん	向陽中学校 3年	『「私」を愛す』
優秀賞	竹島 灯さん	中村第二中学校 3年	『心のバリアをなくして』

最優秀賞

ノーチャレンジ・ノーチャンス

中村第二中学校 2年 木村 友乃さん



「ノーチャレンジ・ノーチャンス。」この言葉は、挑戦しなければチャンスは訪れないという意味で、入学してすぐに、ある先生が繰り返し話してくださった言葉です。私は小学生のころから、自分から何かに挑戦することができませんでした。授業中、先生が質問した内容がわかったとき、委員会や行事で役員を決めるとき、「発表したい」「やってみたい」という気持ちはあるのに、もし失敗したら...という不安がつきまとい、一歩踏み出すことができませんでした。だから、中学校入学を機に「変わりたい」という強い思いがありました。「発表したい」「やってみたい」という気持ちで、この言葉に出会うことで刺激され、自分の中であふれそうな感覚がありました。いや、あふれたのだと思います。

まず、私は小さい挑戦から始めていこうと思いました。中学校入学時の私の席は一番前でした。先生が立っている教卓からは一番近いといえます。授業中に、「これは、なぜでしょう」と先生が質問したときに、私は先生だけにしかわからない声で答えをつぶやきました。先生は、「そうです。木村さんが言ってくれたように、答えは○○だからですね。」先生に自分の答えを取り上げてもらったとき、私はすごくうれしかったのを覚えています。人から見たら、そんなこと？と思われるかもしれませんが、でも、私にとってはとても勇気のいることで、心臓がどきどきしていました。こんな小さな挑戦が、自分に自信をもたらしました。チャレンジと聞くと、何か大きなものに挑戦しなければならぬ印象を受けますが、私はそうは思いません。小さなチャンスを見逃さず、挑戦していく。それが成功していくことで自信になる。失敗したって、失敗した

経験がまた次のチャレンジを生むのかもしれませんが。

私には、漁師をしている祖父がいます。祖父は、よく私にこんなことを言います。「東日本大震災、原発事故、処理水海洋放出の問題と、おじいちゃんも苦難の連続だぞ。」と。確かに、度重なる地震やそれに伴って発生した風評被害で、祖父はここ何年も地元の海や産業を守るために必死に働いてきました。きつと辛く途方にくれるような日々が続いたと思います。しかし、そんな姿を私には見せず、復興に向けてチャレンジし続けています。そして今、少しずつ地元へ観光客が戻ってきました。週末、海が賑わっている様子を見ると、祖父があきらめず取り組んできたことが今につながっているのだと感じます。そして、そんな祖父が、以前よりまぶしく見えるのが不思議です。今まであまりにも近い存在のために、身近で頑張っている祖父や家族の生き方を意識したことがありませんでした。でも、小さな挑戦をし続けている人は、私の周りにはたくさんいたのかもしれない。

もちろん、現状に満足していたら、また新たなチャンスと呼び込むことはできません。未来にあるチャンスをつかむためには、挑戦し続ける気持ちが必要で、今後私が挑戦したいことは何か。それは、学校から活動の場を広げて、社会や他の人のために活動していくことです。私は今年初めて地域のボランティア活動に参加しました。それは、海のゴミ拾いです。祖父の思いに私の思いも重ね、祖父のチャレンジに私も加わり、今は自分のためだけでなく、地元のために行動していきたい気持ちであふれています。私は「チャンス」を大切に、前向きな姿勢で取り組むことで、どんどん良い未来が拓かれていくことを実感しています。自分の中からあふれ出した「変わりたい」「やってみたい」という思いを行動に移せた自分が、少し前の自分よりずっと好きです。

「ノーチャレンジ・ノーチャンス。」あなたも、あなたがチャレンジしたいことに向けて、怖がらずに挑戦してみてください。



竹島 灯さん



小迫 はるひさん

「少年の主張」福島県大会

9月26日、少年の主張福島県大会が川俣町で開催され、本市から出場した竹島灯さん（相馬大会優秀賞）が優秀賞、小迫はるひさん（相馬大会優秀賞）が優良賞に選ばれました。

県大会では、県内の中学生 10,389 名（165 校）の応募のうち、県内各地の審査を通過した 16 名が発表しました。



「ふくしまを十七字で奏でよう」最優秀賞・佳作受賞



12月7日、令和6年度「ふくしまを十七字で奏でよう」絆ふれあい支援事業」表彰式があづま荘（福島市）にて行われ、本市からは中村第一中学校3年 庄子明日翔さん（子）・庄子佳代さん（母）がふるさと部門最優秀賞に選ばれました。

また、相双域内表彰式が12月13日、南相馬合同庁舎（南相馬市）で行われ、向陽中学校2年 前川渚さん（子）・前川克美さん（父）が絆部門佳作を受賞しました。

この事業は、子どもたちが家族や友人などとペアを組み、日頃感じた思いや願いを17音で表現することで、豊かな心を育てるとともに、人と人との絆を深めることをねらいとし、県教育委員会が主催しています。今年は県内外から 38,069 組、相双地区では 6,006 組（絆部門 4,258 組、ふるさと部門 1,748 組）の応募がありました。



【写真右下段】前川 渚さん

ふるさと部門

最優秀賞

- ・ほら貝の 厳かな音が 染み渡る（中村第一中学校3年 庄子明日翔さん・子）
- ・騎馬武者の 歴史新たに 風五月（庄子佳代さん・母）

絆部門

佳作

- ・おはようと そのためだけに 起きてきた（向陽中学校2年 前川渚さん・子）
- ・やっと来た その声まって 行って来ます（前川克美さん・父）

青少年健全育成・社会教育関係受賞報告



武島 昭良さん

持立 剛さん

菅野 良成さん

12月17日、市役所において、青少年健全育成、及び社会教育関係の受賞報告を行いました。

受賞された皆さんは、少年センター補導員や、社会教育委員として長年にわたりご尽力された功績をたたえられ、現在もなお第一線でご活躍されています。

県青少年健全育成条例第13条に基づく知事表彰

持立 剛さん

県青少年健全育成県民会議表彰要綱に基づく表彰

菅野 良成さん

東北地区社会教育委員連絡協議会表彰

武島 昭良さん